

2017年3月期 第1四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2016年7月29日



東証第1部 : 6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限られるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

I . 2017年3月期第1四半期 業績概要

I - 1. 事業概要

I - 2. 連結決算概要

I - 3. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

II . T&M事業の事業機会

Blank slide

I - 1. 事業概要

T&M事業

開発・製造・建設・保守用

- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2016年3月期 実績 (連結) : 955億円



T&M 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

I - 2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

セグメント		2017年3月期第1四半期（4月-6月）の状況
 T&M : モバイル市場は投資抑制が続く		
モバイル	チップ・端末ベンダーの設備投資抑制継続	
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調	
エレクトロニクス	モジュール開発・業務用無線需要は堅調	
アジア	中国スマホ市場の成長率鈍化 光デジタル関連の製造設備需要堅調	
米州	光デジタル関連への設備投資は回復基調	
 PQA : 国内コンビニ市場中心に設備投資は堅調		

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA : Products Quality Assurance

I - 2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	240	209	△ 31	△ 13%
売上高	236	203	△ 33	△ 14%
営業利益	15	7	△ 8	△ 52%
税引前利益	17	0	△ 17	△ 100%
当期利益	11	0	△ 11	△ 98%
当期包括利益	25	△ 28	△ 53	-
フリーキャッシュフロー	14	38	24	175%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I - 2. 連結決算概要 - 金融収支・税金費用・包括利益 -

(単位：億円)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前期比 増減額
営業利益	15	7	△ 8
為替差損益*	1	△ 7	△ 8
その他の金融収益・費用など	1	0	△ 1
税引前当期利益	17	0	△ 17
法人所得税費用	5	△ 0	△ 5
当期利益	11	0	△ 11
その他の包括利益	14	△ 28	△ 42
在外営業活動体の換算差額	10	△ 28	△ 38
その他	4	0	△ 4
当期包括利益	25	△ 28	△ 53

* 為替予約時価評価を含む

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I - 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

▶ T&M：前年四半期比16%減少

▶ PQA：計画通りに進捗

億円

300

250

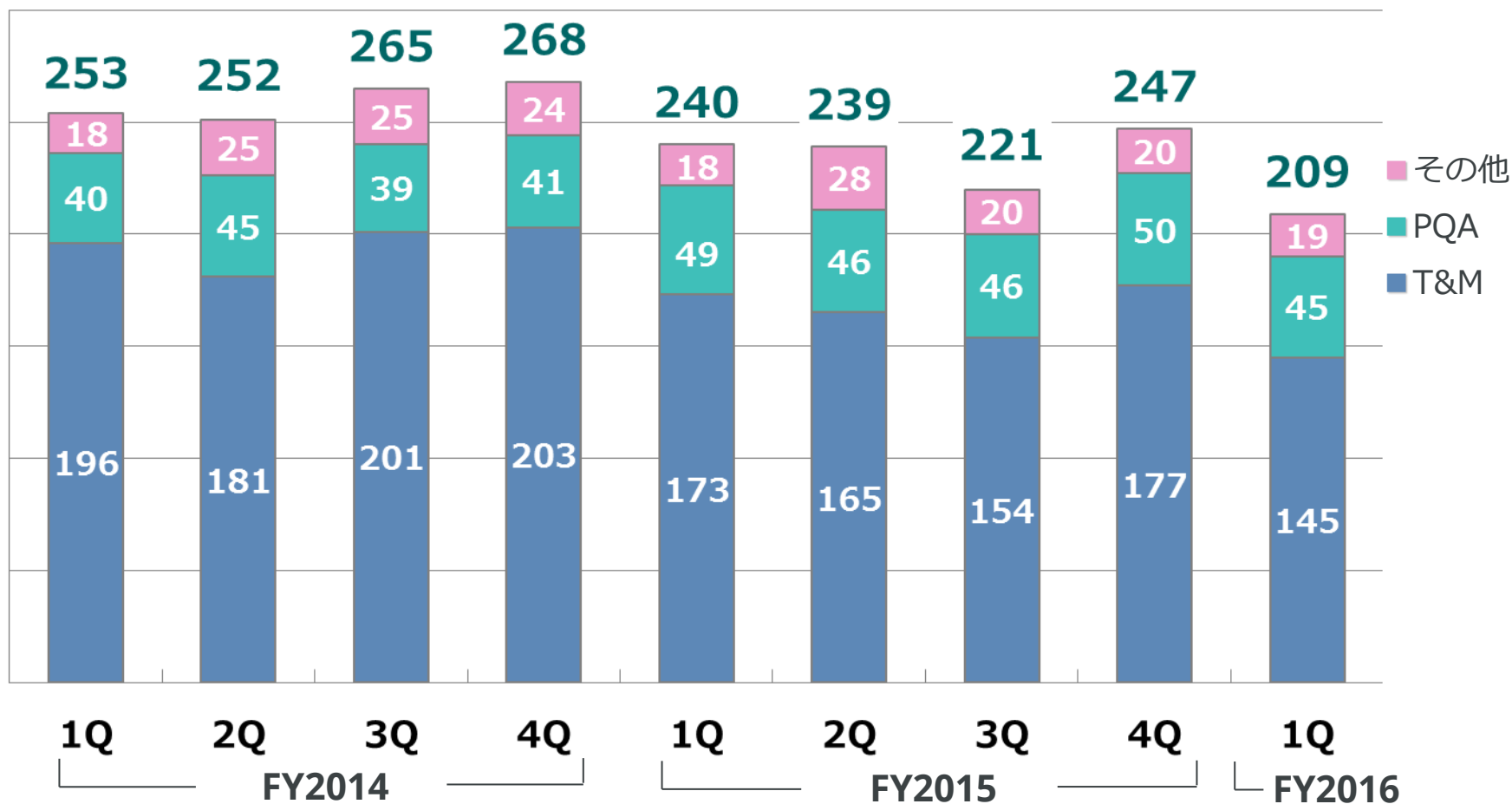
200

150

100

50

0



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	181	146	△ 35	△ 19%
	営業利益	18	7	△ 11	△ 60%
PQA	売上高	37	41	4	11%
	営業利益	△ 0	1	1	-
その他 (含：内部消去)	売上高	19	15	△ 4	△ 18%
	営業利益	△ 3	△ 1	2	-
合計	売上高	236	203	△ 33	△ 14%
	営業利益	15	7	△ 8	△ 52%

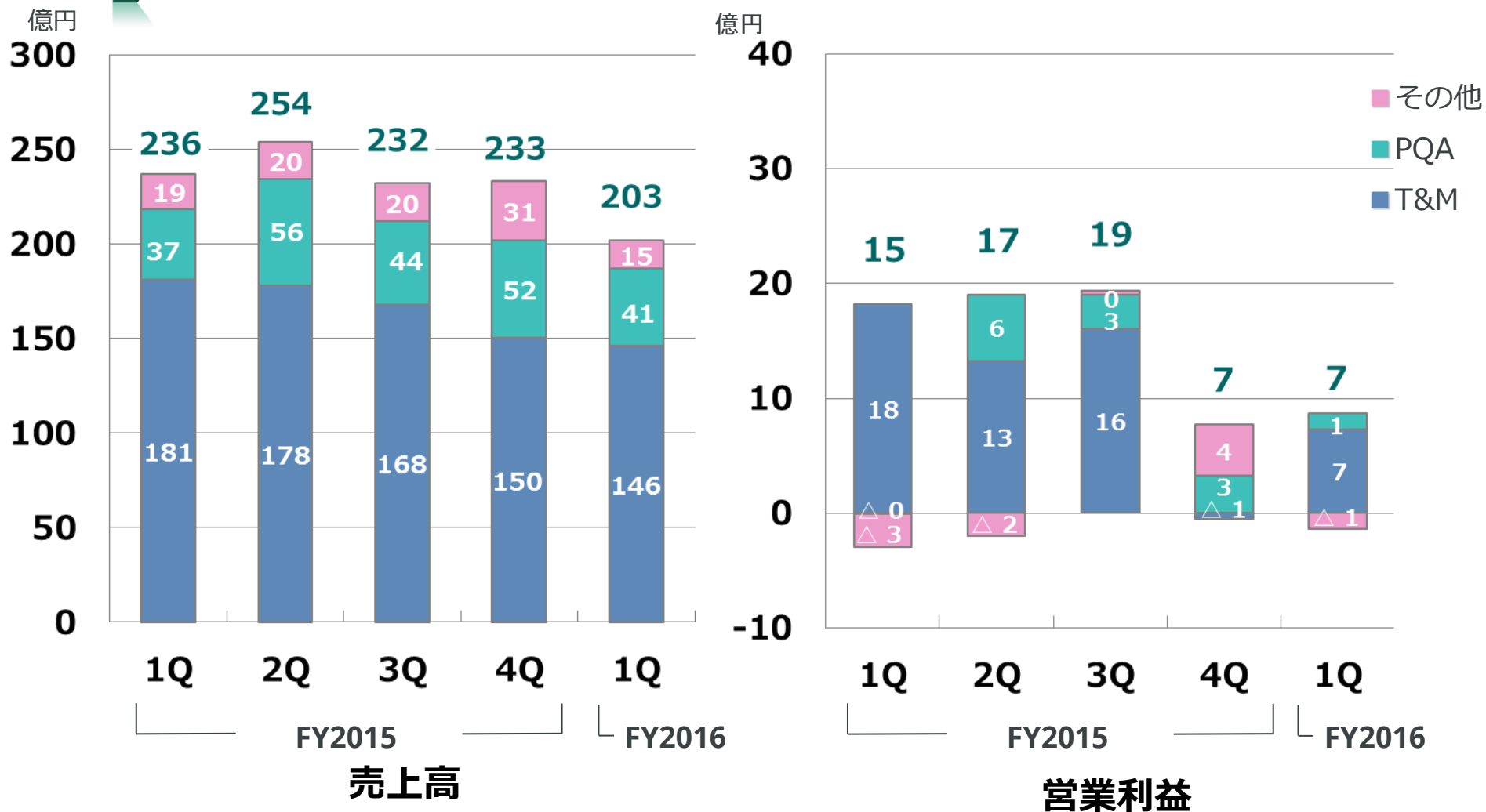
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

T&M: Test & Measurement

PQA : Products Quality Assurance

I - 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第1四半期の連結営業利益率 3.6%

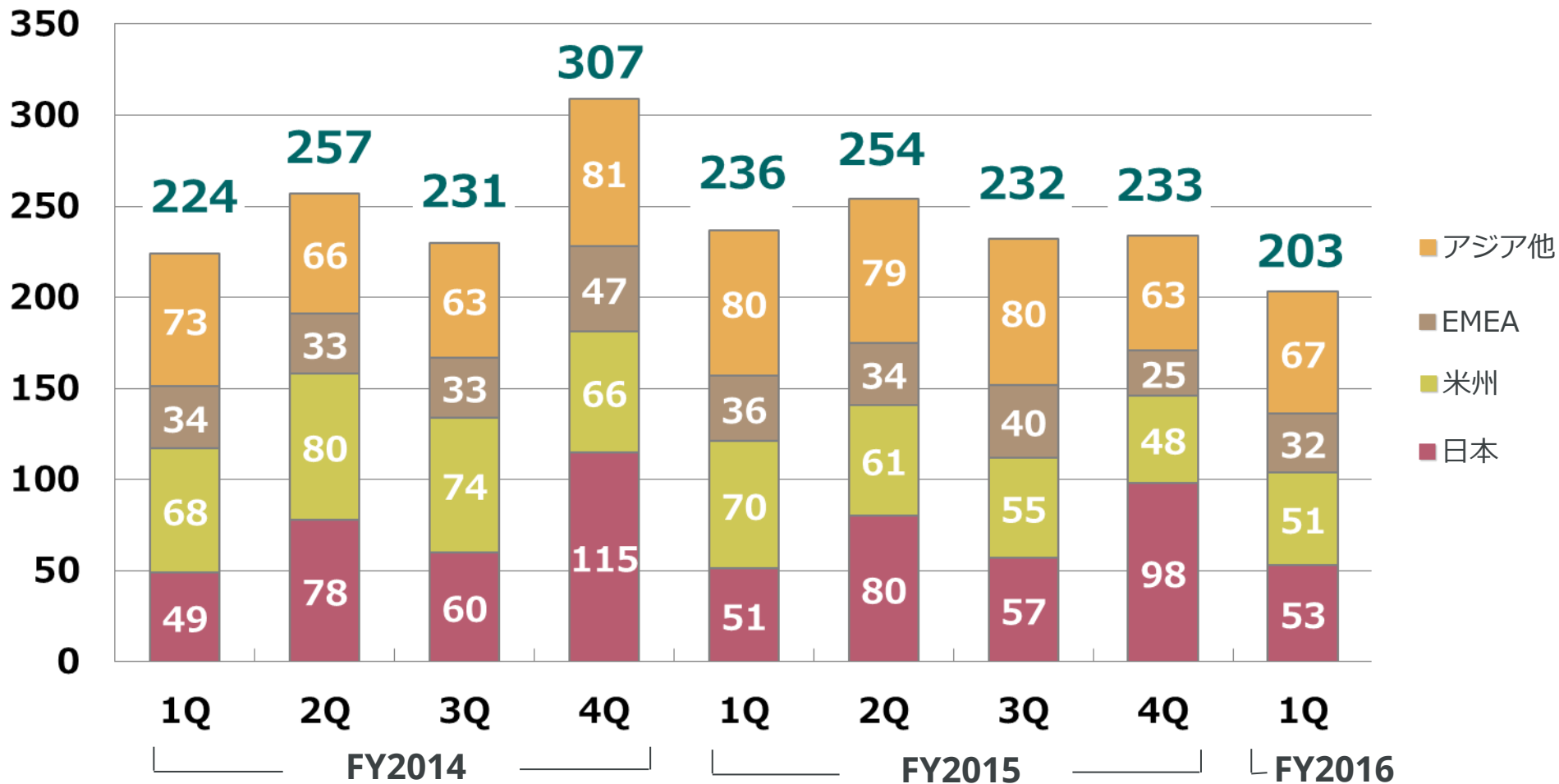


(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I - 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

▶ 前年第1四半期比、米州、EMEA、アジアで減収

億円



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I - 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 営業CFマージン率24%

FY2016 Q1

- ①営業CF： 48億円
- ②投資CF： △10億円
- ③財務CF： △17億円

フリーキャッシュフロー
 (① + ②)： 38億円

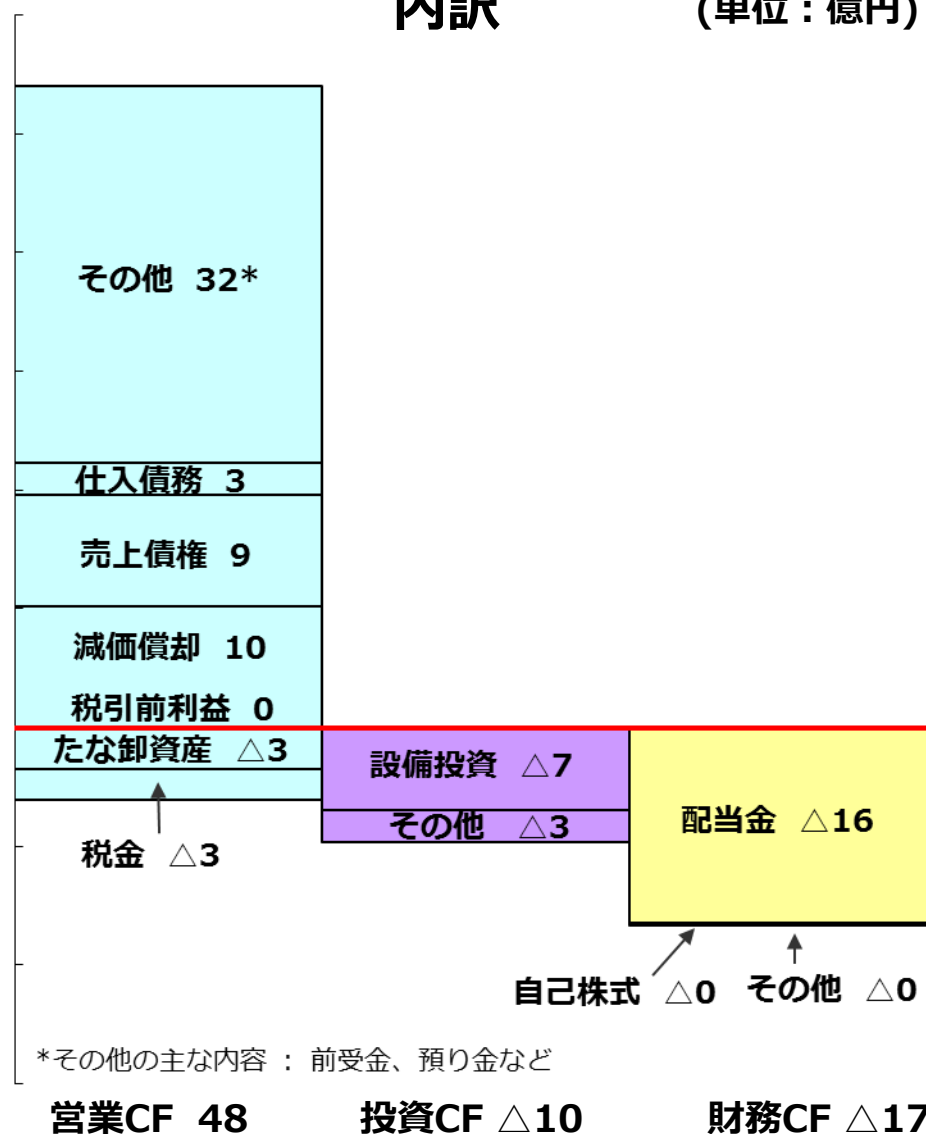
現金同等物期末残高
 378億円

有利子負債高
 220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

内訳

(単位：億円)



I - 3. 2017年3月期 通期業績予想 (連結)

▶ 4月開示より変更なし

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		2016/3期	2017/3期		
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		955	970	15	2%
営業利益		59*	72	13	22%
税引前利益		54**	71	17	31%
当期利益		38	53	15	41%
T&M	売上高	677	680	3	0%
	営業利益	47*	55	8	17%
PQA	売上高	189	200	11	6%
	営業利益	12	14	2	17%
その他 (含：内部消去)	売上高	89	90	1	1%
	営業利益	△ 0	3	3	-

*リストラ費用約7億円含む

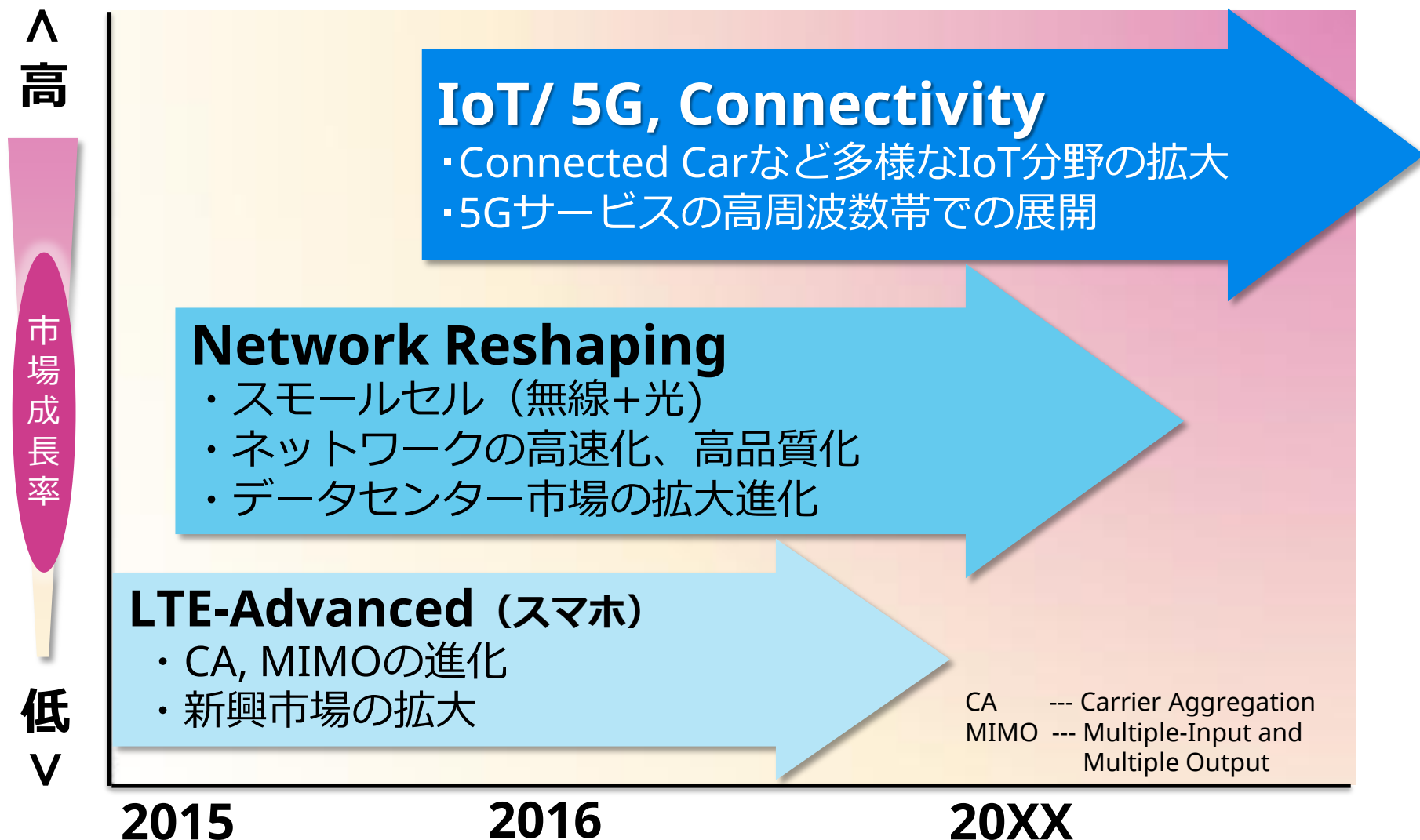
**金融収支に為替差損約4億円含む

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入
 (参考) FY15為替レート : 1米ドル120円、1ユーロ=133円
 FY16想定為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=125円

Ⅱ. T&M事業の事業機会

T&M事業

次の成長ドライバーであるIoT/5Gへの積極投資



T & M事業：事業機会(1)

LTE-Advanced (スマホ)

- ・ CA, MIMOの進化
- ・ 新興市場の拡大

2015

2016

20XX

- ・ 3CA, MIMO対応デバイスの開発需要

- ・ 1ギガスループットへの対応

- ・ インドをはじめとする新興市場の開拓



デバイスの開発試験
ソリューション



スマホ製造試験
ソリューション



タブレット



スマートフォン

T&M事業：事業機会(2)

Network Reshaping

- ・スモールセル（無線+光）
- ・ネットワークの高速化、高品質化
- ・データセンター市場の拡大進化

2015

2016

20XX

- ・日本の3.5GHz帯のサービス開始
- ・北米オペレーターのスモールセル化への投資



3.5GHz帯のエリア評価

基地局アナライザ+
CPRI測定ソリューション

- ・ネットワークの高速化
(100Gbps)



ネットワーク建設&保守
における品質評価

- ・データセンターの
高速・大容量化
(400Gbps)



データセンター向け
光モジュール評価

T&M事業：事業機会(3)

IoT/ 5G, Connectivity

- ・Connected Carなど多様なIoT分野の拡大
- ・5Gサービスの高周波数帯での展開

2015

2016

20XX

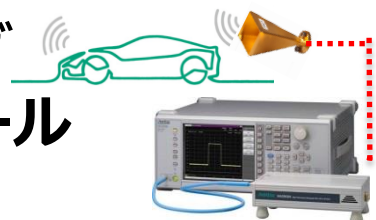
- ・オペレーター主導のIoT開発需要
(カテゴリーM, NB-IoT)



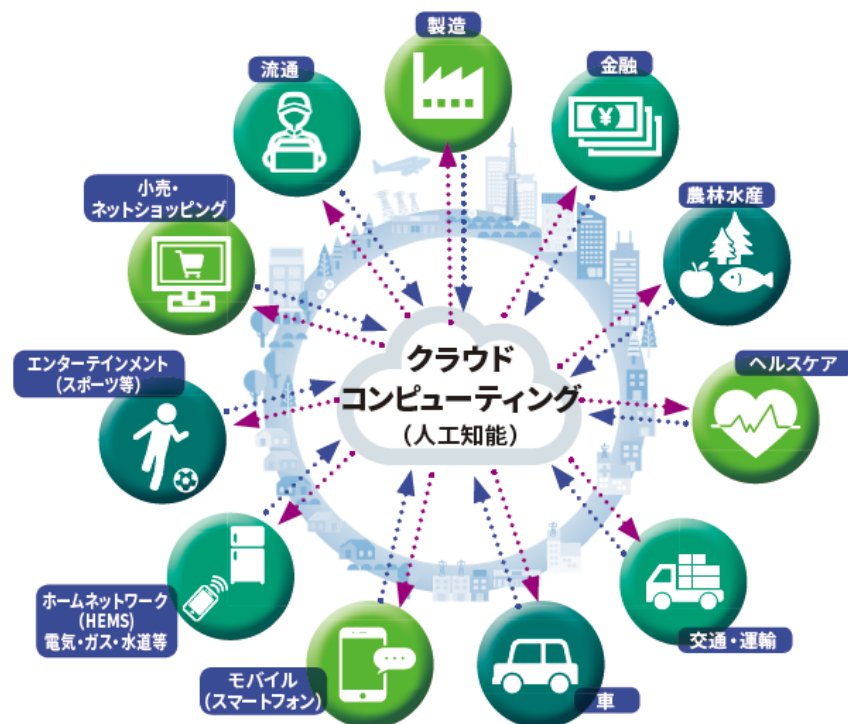
- ・車両緊急通報
システムの導入



- ・オートモーティブ
市場向けモジュール
の開発需要



車載モジュールの開発試験



Anritsu
envision : ensure